

## 食の大切さを学ぼう！

### ～親子の食育教室～

9月28日、村民会館を会場に親子で食の大切さや調理の楽しさ、地産地消の重要性などを学ぼうと親子の食育教室が開催されました。主催は村と村食生活改善推進員（伊東ヤイ子会長・下関）。当日は、ひじきの炊き込みご飯や給食のナポリタン、鮭のホイル蒸しのほかフルーツゼリーなど全9品を調理。参加した子どもたちは、お母さんや食生活改善推進員の皆さんに教えてもらいながら包丁で材料を切ったり、フライパンで野菜などを炒めたりして料理を楽しみました。

参加した木島遥風さん（関川小2年・沢）は「材料を切るのが大変だったけど、上手だねって言われて嬉しかった。また来年も友達と一緒に参加したい」と喜んでいました。



## 巨大迷路の出現に 子どもたちも大興奮！

上野新集落の女川ハム工房前に減反田を利用した巨大迷路が出現し、園児らの遊び場となっています。これは「農業をもっと楽しくできたら」と大島信一さん（上野新）が提案し、鈴木和夫さん（南中）と須貝助一さん（高田）の協力を得て実現したものです。元々、枝豆を植えていた20㍍の畑でしたが、連作障害を避けるために蒔いた植物『クロタラリア』を利用して迷路を作りました。

完成の翌日には、さっそく女川保育園の園児が巨大迷路を体験。3㍍の高さに生い茂ったクロタラリアの中をゴール目指し、元気よく走り回っていました。菅井理沙ちゃん（下関）は「ちょっと迷ったけど、ゴールできて楽しかった。また、ここで遊びたい」と笑顔がこぼれていました。

角界で活躍中の力士・「小池」（本名・小池一毅さん）が9月場所を終えたばかりの10月1日、平田大六村長を表敬訪問しました。

高校相撲の強豪校である海洋高校（糸魚川市）を中退し、角界へ飛び込んだ小池は、これまで7場所を戦い、6場所

で勝ち越し。常に自分より強い幕下の力士を相手に稽古を重ねてきました。182㌔・142㌔と恵まれた体格を活かし、万全の状態で臨んだ9月場所では、2日目の朝稽古中、左手の甲を負傷するアクシデントに見舞われたものの、集中を切らさず、力強い相撲で6勝1敗の好成績。11月に始まる九州場所が幕下を懸けた勝負の場所となります。

平田村長から「仲間のために、ゆっくり頑張れ」とエールを送られると、小池は「上にあがるにつれて、技術もスピードも全然違いますが、来場所も好成績を残せるよう、毎日稽古に励むので応援お願いします」と力強く抱負を語っていました。小池の活躍は、来場所からBS1でも放送される予定です。

## 大相撲 9月場所を終え 村長を表敬訪問

下関出身力士 小池 《鍛山部屋》



## 大修理中の渡邊邸

### 来春の一般公開へ向け 若者らが企画会議



▲渡邊邸の図面を見ながら検討を重ねるメンバーたち

平成21年から始まった国指定重要文化財渡邊邸の大修理も佳境を迎えています。そんな中、来春4月5日の一般公開へ向け、村内の若者らがイベントを成功させようと企画会議を重ねています。

10月7日、村民会館で行われた会議には関川ゼミナール（加藤貴光代表・内須川）や音屋楽市楽座（田村優子代表・平内新）のメンバーなど約10人が参加。今春、企画会議を立ち上げ、これまでイベントの内容や出演者などについて検討を行ってきました。この日は、キャッチフレーズについて話し合いが行われ、試

行錯誤の末、キャッチフレーズは『春の響 第一章門出・第二章 祝祭』に決定。

本番まで半年をきり、田村優子さんは「このプロジェクトにはいろいろな世代の人たちが関わっていて、みんな協力しあっていることにすごく意味があると思います。だからこそ、ぜひ成功させたい」と意気込みを話していました。

イベントは、4月4日・5日の2日間で、和太鼓集団鼓動で中心プレーヤーとして活躍していた金子竜太郎さんや狩野泰一さんなどを招き、盛大に開催される予定です。

## タランペクラブ秋の陣 山小屋サバイバル

秋晴れに恵まれた10月11日・12日の2日間、タランペクラブ（加藤克徳代表・鮎谷）が大石の梁山泊（山小屋）でたき火キャンプを行いました。キャンプには、関川小学校の児童や地域のボランティアなど14人が参加。灯りも、テレビも、お風呂もないたき火だけの不便な生活を楽しみました。

日中は、標高696mの立烏帽子登山に挑戦。1年生も見事登頂し、関川村を一望しました。頂上からは、新潟市にあるビッグスワンスタジアムを眺めることができ、子どもたちも遠く離れたスタジアムの姿に興奮。

キャンプに参加した須貝光樹さん（関川小3年・高田）は「立烏帽子を登るときこわかったけど、頑張って登ることができた。頂上に着いたとき嬉しかった」と喜んでいました。



## 関川小5年生児童 鎌を手に学校田で稲刈り

10月7日、さわやかな秋晴れのなか、下関地内にある関川小学校田で5年生児童が「大したもん蛇米2014」の稲刈り作業を体験しました。

当日は、父母や祖父母、JA職員のほか、地域の皆さんなど約20人がボランティアとして参加。前日の雨により、ぬかるんだ田んぼでの作業となりましたが、泥だらけになりながらも約10畝の田んぼで昔ながらの手刈りとはさがけに挑戦しました。5月に5年生が田植えを行い、その後は主に地域のボランティアの皆さんが田んぼを管理。子どもたちも定期的に草とり活動や生育状況の観察などを行ってきました。

藤井和映くん（下関）は「体操着が泥だらけになったけど、稲刈りは楽しかった。でも、草がいっぱい生えていて大変だった」と話していました。

今回収穫した米は堀と柳の秋まつりでPRされたほか、学校給食などで使用される予定です。